



8月23日、市山岳協会の皆さんと
一緒に白山登山をする栗市長

ごあいさつ

平成28年9月5日

9月に入りましたが、まだまだ暑い日が続いています。台風10号の通過に伴い、北海道や東北での大きな被害が発生しました。岩手県の高齢者施設で9名の方が亡くなられ、災害弱者といわれる方々の命を守れなかったことを残念に思います。

先月21日に、本市においても防災訓練を行いました。今年は5年の防災計画の中間年にあたり、特に高齢者やひとり暮らしの方々の安否確認について訓練をしました。町内会によっては玄関先にタオルを出していただくなど、工夫を凝らした取り組みもされていました。地震調査研究推進本部が「森本・富樫断層帯」の地震発生危険度を2～8%という表現から、危険度を4段階で示すうちの最も高い「Sランク」と表現を変えました。野々市は比較的安全だと思われていますが、そうではないという認識を持っていただきたいと思います。冷静にこの評価を受け止め、今後も市民の皆さんとその対応について考えていかなければなりません。訓練の機会を提供することは大切ですが、あくまで基本に変わりはないので、地道な訓練を積み重ねることによって、多くのご理解をいただけるものと思っております。

この夏のいちばんの話題は、リオのオリンピックでの日本選手の活躍ではないでしょうか。この中には石川県出身のレスリングの川井梨紗子選手、柔道の松本薫選手、競泳の小堀勇氣選手の3人のメダリストの活躍もあり、感動の連続でした。それ以上に感動したのは試合後の選手のインタビューです。

いちばん練習した人が「金」を取る。自分はいちばん練習したつもりでいた。だから絶対取れると思っていたが、結果は「銀」であった。さらに練習し、研鑽して次の東京では「金」を取る、とコメントしたのはレスリング男子の太田忍選手です。技術的な面でも優れているのでオリンピックへの出場となったのですが、トップアスリートというのは、人としての磨き方も一流なのだなあと感じました。高く、より高く志しを掲げる「向上心」は私たちにも大切なことです。現状に満足することなく、どうしたらさらによくなるか、行政の仕事にはこれでいい、ということはありません。安心安全なうえに立ち、市民の皆さんの満足感を追い求めることではないかと感じます。職員一丸となった向上心を持ち続けたいと思います。

高く、より高いところへをねらったわけではありませんが、23日に石川県でいちばん高いところ、白山に登ってきました。市の山岳協会のお誘いを受け、久しぶりの登山です。砂防新道から頂上へと、台風一過で天気もよく、登りながらいろいろなことを考えることができ、気持ちがリセットされました。今月下旬には献穀田の御抜穂式も行われます。来年は白山開山1300年ということで、私たちは白山の恵みのなかで命をつないで生かされており、改めて大自然への畏敬の念を感じることができました。

また、白山に登られますか、とおたずねをいただきましたが、答えに窮してしまいました。本音を申し上げると、登山後一週間は、体中が痛くて階段の上り降りや、屈伸に難儀しました。これも白山からいただいた、生きていることへのありがたいお土産ですね。